

WASPA

「和」をコンセプトにおもてなしの心と トリートメントを確立したスパの新しい形

五感で日本を感じることができる空間で インバウンドの時代に応える

「メイドインジャパンのスパを作りたい」——今から 20 年近く前のこと、エステティックサロンの「ミス・パリ」や「ダンディハウス」を展開するミス・パリ・グループの下村朱美代表が描いた想いでした。その後、日本ならではのスパの形を模索し続け、2015 年 11 月にオープンしたのが「WASPA」です。日本にこだわり抜いた「WASPA」がどのようにして誕生したのか、どのようなコンセプトに根差しているのか、日本のイメージを反映させる多様なトリートメントなどを明らかにしながら、エステティック業界をはじめとする美容・健康サービス分野に対する新たな将来像の提起などについてレポートします。



日本特有の美と健康の秘訣に 着目し繰り返した試行錯誤

「WASPA」の発想が生まれたのは、20 年近く前のこととなります。ミス・パリ・グループの下村朱美代表がある有名ホテルの社長との会話がきっかけだったそうです。そのあたりの経緯について、ミス・パリ・グループに教えていただきました。

「その方とお話しているなかで、『世界中のスパを見て回り、世界一のスパを導入したい』とのお言葉があったそうです。ところが日本のスパはそこに含まれていなかった。検討材料にも残っていなかったということです。下村はそのことをとても残念に思い、『それならば、世界中の人が一度は訪れてみたいと憧れるメイドインジャパンのスパを作ろう』と決心したのです」

この下村代表の決意が WASPA の原点になります。

世界にはタイ古式やバリニーズ、スウェディッシュなど様々なスパの形があります。それに対し、日本独自のスパとはどうあるべきなのか？

下村代表が着目していたのは、「日本には特有の『美と健康の秘訣』がある」ということだったそうです。

美と健康の秘訣とは、①長寿の秘訣②美の秘訣③癒しの秘訣——の 3 つになります。それぞれの「秘訣」を柴田課長に解説していただきました。

「まず長寿についてはいうまでもなく、日本は世界有数の長寿国として知られています。健康長寿を願うのは世界共通のことですから、日本をイメージできる重要なファクターになります」

そして美の秘訣については、「肌の美しさ、立ち居振る舞い、年齢を重ねても美しいというのが、世界から見た日本人女性に備わった美になります。その秘訣をお伝えし、実感できるようなトリートメントやサービスを提供することです」としています。

3 つめの癒しの秘訣ですが、「WASPA」が「WASPA」である所以を最も映しているといえるかもしれません。なぜかという点、「WASPA」の店内に入ると茶道や禅に通じるおもてなしの心をうかがうことができ、しかも日本情緒あふれる装飾や演出によって「和のこころ」が醸し出され、五感に訴えてくるからです。

受付や店内の壁は釘を一切使わず手作業で職人が作り出す日本の伝統工芸品「組子」を使用しています。天井の明かりは和紙を透かして優しく、黒御影石を磨き込んだ通路を照らしています。店内には漆を使った高級スピーカーから流れてくる柔らかな音色が耳に染み入ります。壁の大鏡や屏風など日本らしさの装飾がそこかしこにあり、季節に合わせた香のかおりがリラックス感を盛り上げてくれます。さらに施術前には茶室で煎茶や抹茶、季節を感じさせる和菓子をいただくことができ、和を実感することができます。

見るもの、聞くもの、触れるもの、そして匂いや味の五感のすべてを使って和を感じることができる空間になっているのです。

そのあたりについてミス・パリ・グループにたずねたところ、次のように教えてくれました。

「癒しの秘訣とは、武道、茶道、禅といった日本の伝統文化の根幹に流れる心の安定や浄化になります。長寿、美、そして癒しという 3 つの秘訣を大きな柱とし、さらに日本らしいトリートメントを融合させたのが、「WASPA」なのです（ミス・パリ・グループ）。

ちなみに「WASPA」とは、「和スパ」とのこと。世界に通用する和のスパをイメージさせるネーミングになります。





日本ならではの施術を たどり着いた「青竹セラピー」

「WASPА」のおもてなしの心は受付後、すぐに始まります。受付の隣にあるオープンスペースの茶室でお客様に遠州流の作法を学んだスタッフのたてた抹茶を楽しんでいただけます。和菓子は日本の四季を感じてもらえるよう季節ごとに変えるということです。

そしていよいよ施術に入るわけですが、8室(用途によって7室)ある個室にはそれぞれ異なる菩薩像を祀っています。これもおもてなしの一環であり、「お客様のご利益になるように」という、日本らしい信心をあらわしています(ミス・パリ・グループ)と、徹底して和の心を追求しています。

しかし、サロン店内の雰囲気や和風にするだけでは、下村代表が目指していた「メイドインジャパンのスパ」とはいえません。お客様に満足していただける施術力が大事な要素となります。ところがエステティックの施術といえばパリが本場。西洋で発祥したエステティックの施術ではなく、日本ならではの施術を確立することが、「WASPА」の最大の課題であったかもしれません。

そこで試行錯誤を繰り返し、「WASPА」がたどり着いた独自のトリートメントが「青竹セラピー」というものです。

青竹に着目した理由についてミス・パリ・グループでは、こう語っています。

「空に向かって真っ直ぐに伸びる竹は、繁栄の象徴といえます。また、日本人は古代より、竹に宿る力に神秘性を抱いてきました。その神秘性が「竹取物語」を生み、竹を使った祭りや神事が古くから伝承されています。竹は和をイメージできる代表的な存在と言え、青竹を使ったトリートメントは世界的にもめずらしいはず」

そこで「青竹セラピー」の特徴についてお聞きすると、「トリートメントは青竹とハンドの両方を使って行います。大きな筋肉は青竹を使い、細かい繊細な部分はハンドでトリートメントしていきます」とのことです。

しかも、使用している青竹は普通の竹ではありません。厳選を重

ねた京都長岡京の青竹であり、さらに使用するにあたっては世界遺産の京都醍醐寺で健康長寿の祈禱を受けた青竹であるとのこと。

具体的なトリートメントについては、「青竹の長さや面積を最大限に活かしながら、固くなった筋肉を深部からダイナミックにほぐし、疲れを癒してリラックスしていただけます。1分間に58拍という月のリズムで気の流れを整える繊細な手法を用い、お客様に美と健康を実感していただく」としています。



青竹セラピーを新メニューの 付加価値として業界に提案

青竹セラピーは「WASPА」らしい、ミス・パリ・グループの目指していた日本ならではのトリートメントです。しかしミス・パリ・グループでは自社だけにとどまらず、日本のエステティック業界にも新しい付加価値として提案していく考えを持っています。

今後の展開については、「青竹セラピーは当社のブランドの重要なひとつと位置づけています。現在は銀座にある「WASPА」だけですが、8月には名古屋、京都、大阪などミス・パリ・グループの直営店10店舗の一つのメニュー「和SPA」として導入します。早い時期に30店舗への導入を進め、和SPAのブランド力と認知度を高めていく予定です」とのこと。そのうえで、「エステティック業界がさらに大きく拡大発展するための原動力として、和SPAはサロンメニューの付加価値になると考えています。今後は特に海外からのインバウンドをどう取り込むかが大きなテーマになってきますので、「WASPА」成功の礎となっている青竹セラピーは戦略メニューといえるものです。他のサロンやスパでも和SPAを導入することは、新規やインバウンドへの大きなアピール材料になるはず」としています。

現在、「WASPА」の顧客層の構成比は半数近くが海外からのインバウンドとのこと。サロンづくりのコンセプトとしては、技術30%、おもてなしの心を70%に置いているとしています。技術力は当然のことであり、日本らしいおもてなしをどれだけアピールできるかがポイントといえることができるかもしれません。



そのため「WASPА」では、スタッフの質や教育にもこだわっています。接客マナーや英会話、茶道、華道、香道などを学んだスタッフを採用することで、安心・安全で高品質のサービスを発信しています。

和SPAを提案していくにあたっては、施術方法だけではなく顧客満足度をさらに高める教育プログラムの充実をはかっていく考えとのこと。

観光立国に必須のスパで 日本の魅力を発信

「WASPА」のメニューには青竹セラピーを含むボディ(5種類)とフェイシャル(4種類)のトリートメントがあります。さらにボディとフェイシャルのコンビネーションメニューが5種類あります。

これらのメニューで注目したいのが、青竹セラピーと同じように他のトリートメントにも「和」という基本コンセプトをしっかりと取り入れていることです。たとえばボディの「塩スクラブトリートメント」では瀬戸内海の塩に蜂蜜を混ぜたハニーソルトを使用しています。同じくボディの「和のアロマヒーリング」で使うアロマオイルは、伊豆大島産の精油と大分産のハーブをブレンドしたものです。フェイシャルの「金箔ツボリンパ美容」で使用しているのは、金沢の職人さんが一枚一枚作った金箔を配合したゴールドクリームとなっています。

厳選した日本産のものを採用することで、「WASPА」では地方の活性化というまた異なる目的をも実現しようとしています。

この点を含めてミス・パリ・グループでは、次のような大きな展望を示しています。

「『WASPА』を構想し展開するうえで、観光立国にスパは必須。だから日本の魅力のひとつとしてメイドインジャパンのスパを絶対に作らなければならない。業界全体で一丸となって、観光立国を担う産業として育てていくこと、それが今後のスパ、エステティック業界の発展につながると思っています」

2020年には東京オリンピックならびにパラリンピックが開催されます。国際都市として東京は今以上にクローズアップされ、海外からの観光客も年々増加が見込まれています。「WASPА」はエステティック業界に新しいベクトルを示すうえで、社会性という大きなテーマをも盛り込んでいるようです。



- 日本健康・長寿ボディトリートメント
「青竹セラピー」：90分 23,000円(税抜き)
- 和SPA コンビネーション「禪」
(青竹セラピー+フェイスコントールリング)：150分
38,000円(税抜き)

WASPА

住所 東京都中央区銀座5-10-2

GINZA MISS PARIS 5F

TEL 03-6757-6520 HP www.wa-spa.jp

営業時間 月～金：11時～21時

土日祝：10時～19時